

中国四国土を考える会総会研修会を開催しました。

2024年3月25日

中国四国土を考える会は、3月11・12日に、愛媛県にて総会・研修会を開催しました。今回の研修会は普及が進む水稲乾田直播栽培の播種と、適切な播種床づくりに向けた一貫体系作業の実演を【乾田直播の準備～播種体系を探る】をテーマといたしました。会員の方々にはお馴染みですが、実演会近隣では見ることの少ない大型作業機の実演とあって、実演会場には80名に及ぶ方々にお集まりいただきました。主題である播種機について、実演はドリルシーダー（スガノ農機）のみでしたが、高速乾田播種機（アグリテクノサーチ）やスリップローラーシーダー（ニプロ）等が展示され、それぞれのメーカー担当者にご説明をいただきました。また、発売前の参考出品としてスガノ農機が実演したランドハローは、そのユニークな開閉方法とダイナミックな表層混和作業で、会員の方々の注目を集めていました。



勝部会長

実演会後はJA周桑研修室に移動し、農事組合法人じきよう代表理事 勝部隆司氏（島根県出雲市）からドローンでの乾田直播播種の取組についてご講演をいただきました。2022年に26aでスタートしたドローン播種を翌年17haまで拡大した経緯や、2年目の発芽率を大幅に向上させた播種前のミックスロータリーと播種後のケンブリッチローラーでの鎮圧等、同技術の全貌をお話いただきました。2023年度の反収はすでに移植を超えていて、今年度はさらに面積を増やしていく（26ha予定）とのこと。続けて行われた中国四国土を考える会総会は、全ての議案が承認され、今後の活動指針や規約・細則の見直し等も検討されました。



勝部隆司氏



ほ場をご提供いただいた徳永さん

その後の懇親会は、予想以上の出席者に会場内での身動きが取り辛いという中、そこかしこで、熱い農業談議が繰り広げられていたようです。さらにほぼ全員が2次会へ参加して、最終組は明け方にホテルに戻るという状況でした。

翌日は高速道路で1時間30分ほど移動し、たいよう農園ほ場の視察を行いました。同社専務の井上さんから説明を受け、緑色のトラクタが整然と並ぶ倉庫での「10年ほど前まではデッドのトラクタ1台だけだったんです。」に皆さん驚きを隠せないようでした。前夜から本降りの雨となっていたようですが、視察時だけは青空が拡がり、天気も味方してくれたようです。今まで以上に若い方々の参加が増え、今後もう層充実した事業を開催していきますので、ご協力よろしくお願いいたします。



注目を集めたランドハロー（参考出品）



たいよう農園のほ場を視察



6台のJDが整然と納まる倉庫で、たいよう農園の記念撮影

